

I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間：平成27年4月～令和3年3月（6年）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

第2期基本計画は、前計画で福島駅を中心に形成された南北軸の新たな賑わいを東西軸へと拡大させることにより商業活性化につなげ、「賑わいの創出」と「快適居住の促進」を目標に、各種事業計76事業（ハード35事業、ソフト41事業）に取り組んできた。

福島駅前通りリニューアル整備事業及び「上町地区暮らし・にぎわい再生事業」（大原総合病院）が完了し、東西軸上の連携強化による新たな人の動きが生まれたことで賑わいが増大した。

令和元年には、「まちなか交流スペース事業」が完了し、東西軸上に新たな拠点が整備され周辺への波及効果が現れたことにより、中心市街地内各所で歩行者・自転車通行量の増加が見られた。

令和2年には、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛の影響により、歩行者・自転車通行量は著しく減少したが、「中心市街地活性化イベント開催事業」や歩行者天国などの開催により、まちなかの回遊が得られるなど一定の盛り上がりが見られた。

さらに、12月15日には、8月末に閉店した老舗百貨店中合福島店跡に、地元スーパーの出店と街なか交流館がオープンしたことにより、市民等の新たな来訪機会の創出やまちなか回遊への喚起につながっている。

少子化などによる人口減少が長らく続いていたが、早稲町地区暮らし・にぎわい再生事業による効果が現れ始めていることや近年民間マンション建設が活発化していることにより、令和2年度には人口増に転じた。

また、「創業応援利子補給事業」利用者が、目標1店舗/年に対して令和元年度（令和2年1月末時点）28店舗/年に達するなど、まちなかでの起業・創業を志向する人も多く、新規出店舗数は増加している一方で、空き店舗や駐車場等の低未利用地も依然として増加傾向にある。

こうした中で、「栄町地区都市再生構築型優良建築物等整備事業」による福島県立医科大学保健科学部が令和3年4月1日より開校された。また、「文化交流施設整備事業」による写真美術館の復旧整備が完了し、令和3年5月29日にリニューアルオープンを迎える。更には「福島駅東口地区第一種市街地再開発事業（以下、再開発事業）」が、令和2年3月23日に都市計画決定の告示がされ、令和8年の完成に向けて事業着手されるなど、新たな事業も動き始めている。

これらの事業を契機として、新しい中心部の賑わい形成軸（南北軸・東西軸）が強化されつつあることから、これに加えて各個店や商店街全体の魅力づくりを推進することで、これまでの軸強化から面に波及効果が現れるよう、新しい賑わいの場を生み出していくことが求められている。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度10月1日)

	平成26年度 (計画前年度)	平成27年度 (1年目)	平成28年度 (2年目)	平成29年度 (3年目)	平成30年度 (4年目)	令和元年度 (5年目)	令和2年度 (最終年度)
人口	16,750	16,671	16,444	16,316	16,203	16,043	16,066
人口増減数	-11	-79	-227	-128	-113	-160	23
自然増減数	-15	-93	-125	-103	-63	-151	-486
社会増減数	4	14	-102	-25	-50	-9	509
転入者数	877	935	830	811	794	795	786

※令和2年度の自然増減数、社会増減数、転入者数は12月31日現在の数値

(2) 空き店舗数

(単位：店舗)

調査地点		平成26年度 (計画前年度)	平成27年度 (1年目)	平成28年度 (2年目)	平成29年度 (3年目)	平成30年度 (4年目)	令和元年度 (5年目)	令和2年度 (最終年度)
本町	空き店舗総数	5	4	1	1	5	7	9
	貸出可能空き店舗数	-	3	1	1	3	3	4
大町	空き店舗総数	11	15	13	12	18	21	23
	貸出可能空き店舗数	-	6	4	3	5	5	4
置賜町	空き店舗総数	16	14	12	8	7	10	18
	貸出可能空き店舗数	-	5	4	3	4	8	5
新町	空き店舗総数	21	16	19	25	26	26	27
	貸出可能空き店舗数	-	3	5	5	8	5	5
万世町	空き店舗総数	14	15	19	12	16	15	18
	貸出可能空き店舗数	-	2	6	3	6	3	8
栄町	空き店舗総数	10	5	8	6	4	8	15
	貸出可能空き店舗数	-	1	3	2	2	1	3
合計	空き店舗総数	77	69	72	64	76	87	110
	貸出可能空き店舗数	-	20	23	17	28	25	29

(3) 中心市街地内中心部6地区における低未利用地数

(単位：ヶ所)

	平成26年度 (計画前年度)	平成27年度 (1年目)	平成28年度 (2年目)	平成29年度 (3年目)	平成30年度 (4年目)	令和元年度 (5年目)
本町	4	4	4	4	5	5
大町	6	8	8	8	9	9
置賜町	4	4	4	4	4	5
新町	6	6	6	7	9	9
万世町	2	2	2	2	4	4
栄町	1	1	1	1	2	2
合計	23	25	25	26	33	34

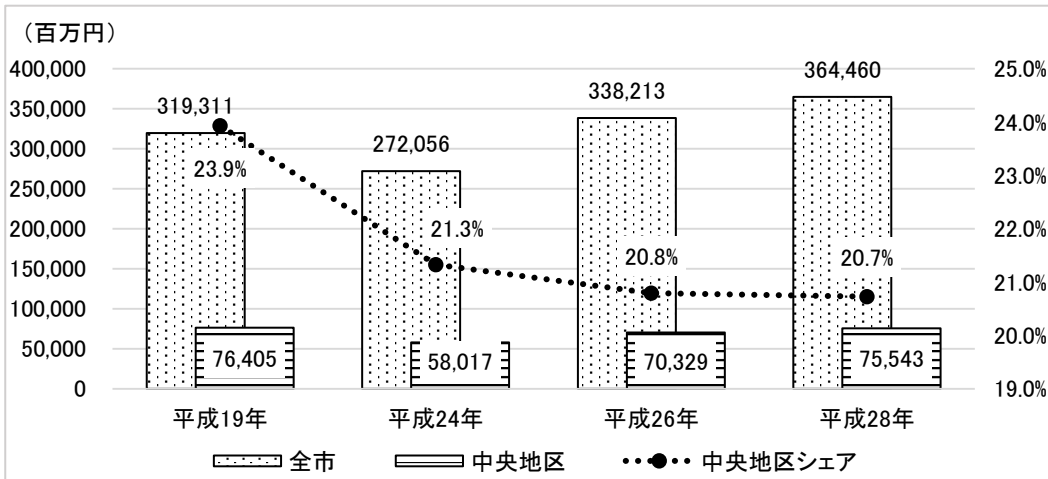
(4) 公示地価

(単位：円/㎡)

区分	調査地点	平成26年度 (計画前年度)	平成27年度 (1年目)	平成28年度 (2年目)	平成29年度 (3年目)	平成30年度 (4年目)	令和元年度 (5年目)	令和2年度 (最終年度)
中心市街地内	宮下町 106-2	64,400	66,800	69,500	72,600	76,500	79,000	81,200
	陣場町 61-18	81,100	81,500	82,200	82,800	84,300	86,400	88,500
	栄町 26-21	190,000	194,000	200,000	206,000	215,000	238,000	245,000
	置賜町 27-2	88,200	89,900	91,300	93,000	95,900	100,000	110,000
	新町 73-13	80,800	80,800	81,100	81,500	83,000	85,800	87,900
中心市街地周辺	三河南町 1-9	130,000	133,000	136,000	140,000	144,000	148,000	153,000
	野田町 2-189-3	69,300	71,300	75,000	78,000	81,000	85,500	88,600
	東浜町 223-4	52,100	53,900	55,900	57,600	59,300	60,700	61,700
	中町 31-2	70,000	70,500	71,000	71,500	73,000	75,400	77,600
	五月町 39-21	63,500	64,000	66,000	70,000	73,200	76,000	78,300

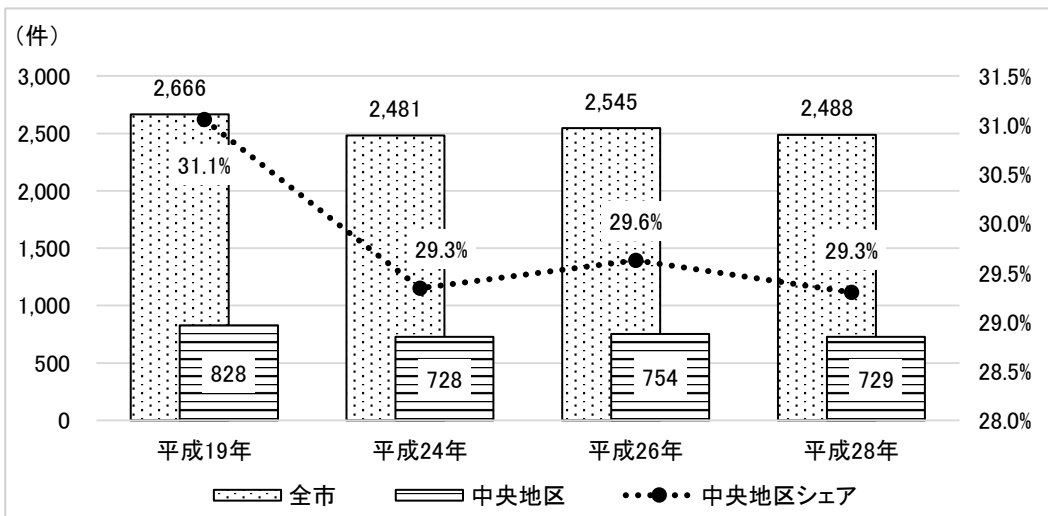
(5) 市全体と中央地区の年間商品販売額の推移

(単位：百万円)



(6) 市全体と中央地区の小売業事業所数推移

(単位：件)



2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ① 概ね予定通り進捗・完了した ② 予定通り進捗・完了しなかった

【活性化状況】

- ① 活性化した
② 若干活性化した
③ 計画策定時と変化なし
④ 計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由（2. における選択肢の理由）

計画していた事業は、東日本大震災等の影響により遅れがあるものの、76事業のうち、35事業は完了し、41事業（うちソフト31事業）は実施中である（令和3年3月現在）が、概ね順調に進捗・完了したといえる。

目標指標のうち、歩行者・自転車通行量については、中心市街地の魅力の向上に繋がる回遊拠点施設の整備が進み、福島駅を中心とする東西・南北回遊軸が形成されたことにより、令和元年度には中心市街地各所の歩行者・自転車通行量が増加に転じ賑わいが創出されたものの、令和2年の新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛の影響により、目標値の達成には至らなかった。

また、居住人口については、東日本大震災に起因して発生した原発事故からの風評により、特に子供を持つ家庭を中心とした自主避難のため放射線量の低い郊外又は、市外・県外へ流出したことが大きく影響し、長らく人口減少が続いたことから、目標達成には至らなかったが、早稲町地区暮らし・にぎわい再生事業による効果や近年民間マンションの建設も活発化していることから、令和2年度には人口増に転じている。

新規出店舗数は、まちなかでの旺盛な起業・創業ニーズを反映して、目標を上回る実績となった反面、空き店舗の件数が平成26年の77件から令和2年の110件に増加しており、東日本大震災に伴う被災建物の除却による空き地の増加などもあいまって、商店街エリアにおける空洞化も進展している。

文化・交流施設利用者数については、令和2年度は基準値を下回る結果となっているが、NHK連続ドラマ小説（朝ドラ）「エール」の放映を契機とした「古関裕而を活かしたまちづくり事業」により、メロディーバス運行等を実施した効果が現れたことで、令和2年度の「古関裕而記念館」への入場者数は62,586人と平成26年の4.2倍に達している。

市全体の活性化に結び付いているような大きな波及効果は見られないが、居住人口がわずかに増加に転じたことや、計画期間満了時（令和3年3月）に県庁通りアーケード整備や写真美術館の復旧整備が完了し、令和3年4月に福島県立医科大学保健学部が開校したことなどとあいまって、来訪者の増加と回遊性が強化され、今後新しい人の流れが生み出され賑わいが増大していくことが期待される。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

前計画の実情を踏まえ、第2期基本計画の目標指標の達成に必要な個別事業や活性化事業の進捗等を管理しながら76の活性化事業を着実に実施しており、官民が連携して管理しながら概ね順調に進捗したといえる。

令和2年の新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛などの影響により、まちなかの歩行者・自転車通行量は著しく減少したが、「上町地区暮らし・にぎわい再生事業」（大原総合病院）や「福島駅前通りリニューアル整備事業」が完了したことで、福島駅を中心とする東西・南北回遊軸が形成されたことにより、新たな人の流れが生まれ、令和元年度には中心市街地各所の歩行者・自転車通行量が増加に転じたことは評価される。

一方、新規出店舗数は目標を大きく上回る実績を生んだことは特筆すべき結果であったが、空き店舗も増加していることが懸念される。市民意識調査によれば商業をはじめとするまちの魅力化に対する要望が依然として最も高いことから、空き店舗の活用等により商店街を中心として、多様な世代のニーズに応える商業・サービスのさらなる魅力づくりに関して、重点的に取り組む必要がある。

東日本大震災や地価の上昇、生活利便性に対する市民評価等に起因して人口減少の趨勢が続いたが、「早稲町地区暮らし・にぎわい再生事業」をはじめとする住宅供給事業が完了または継続中であり、加えて民間マンション建設が活発化し、令和2年度にはわずかながら人口増に転じていることから、今後の需要の伸びを注視しながら生活利便施設の充実等の適切な人口の呼び込みのための取り組みが求められる。

令和2年には、NHK朝の連続ドラマ小説「エール」の放送により、観光客増加への効果が期待されたものの、おりからの新型コロナウイルス感染拡大による全国的な自粛が来訪客、とりわけ文化・交流施設への入込みに極めて大きく影響した。

しかしながら、令和2年度の「古関裕而記念館」への入場者数が62,586人と平成26年の4.2倍に達しているなど、本市固有の取り組みである「古関裕而を活かしたまちづくり事業」の効果は着実に見られ始めていることから、来街者増加に向けたこれらの取り組みを継続的に実施することが求められる。

なお、本計画期間満了時（令和3年3月）には、写真美術館の復旧整備の完了、令和3年4月には福島県立医科大学保健科学部の開校など、その効果の発現は今後期待されるところであり、これらの検証も含めて中心市街地の再生を持続的かつ確実なものとするため、第3期基本計画に掲げる事業等を官民が一層連携して集中的・効果的に取組み、都市機能の強化と経済活動の向上を推進していくことが望まれる。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

「福島市中心市街地活性化に向けたアンケート調査」

- ・調査日：令和元年8月1日～8月31日
- ・調査方法：郵送による配布・回収
- ・配布数：2,000票（福島市全域）
- ・回収数：678票（回収率33.9%）

中心市街地に出かける頻度の5年前からの変化について、最も多かったのは「変わらない」の53.4%となった。また、来訪頻度が「増えた・やや増えた」という回答に比べ、「減った・やや減った」という回答が上回った。

中心市街地のにぎわいについて、5年前からの変化について、最も多かったのは「どちらとも言えない」の35.0%となり、「増したとは思わない・あまり増していないと思う」という意見が、「増した・やや増したと思う」という意見を上回った。

中心市街地のまちづくりに対する重要度と満足度の傾向として「病院や介護施設などの医療・福祉施設の充実」は、重要度及び満足度ともに高くなっている。このことは、現計画の大原総合病院と福島赤十字病院移転新築及び早稲町地区暮らし・にぎわい再生事業都市福利施設の充実が影響したと考えられる。

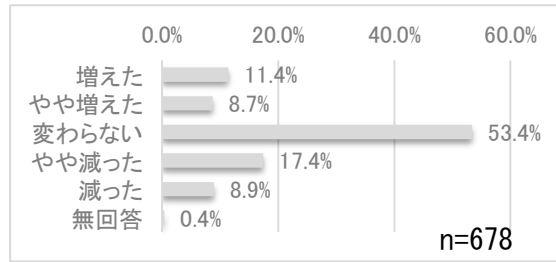
また、「魅力的で利便性が高い、人が集まる施設の充実」、「賑わいを生み出すイベント広場・公園の充実」、「まちの文化や賑わいを感じる街なみづくり」、「買い物や飲食などの魅力的な店舗の充実」について、重要度は高いが、満足度は低くなっている。

中心市街地で改善すべきことを、平成19年度に実施したアンケート（以下、前回）と比較すると、「買い物をする場所としての魅力が足りない」や「行けば何かがあるといったまちの楽しさ、面白さ、話題性に欠ける」が前回と同様に多くなっているほか、「情報、催し物、芸術・文化などに関する動きや活動が遅い」、「子供やお年寄りが過ごせる場所がなく、誰もが集まれるようなまちではない」、「夜になると人通りもなくなり、暗いところが多く不安なまちである」、「車中心で歩行者には危険が多く、歩きにくいまちである」などの回答が増え多様化している。

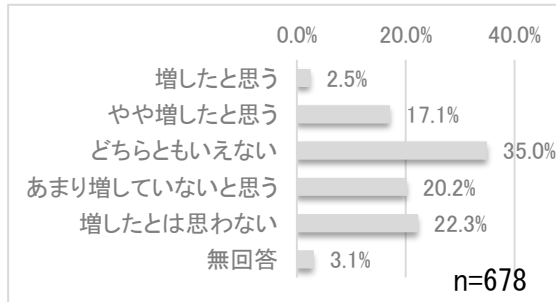
更に、中心市街地のにぎわい創出のために必要な取り組みとして、商業施設の誘致に次いで駐車場の利便性の向上を多くの人々が挙げているが、第1期計画から共通駐車券や共通ポイントカード事業に取り組んでいるものの、共通駐車券利用件数は減少傾向である。

駅前通りについて、ふくしまの顔にふさわしいものにする取り組みについて尋ねたところ、「空き店舗の解消と魅力ある店舗を誘致し、商店街としての魅力アップを図る」との回答が75.1%と最も多かった。駅前通りリニューアル事業が完了したが、沿道の商業施設等の土地利用や魅力向上が当面の大きな課題といえる。

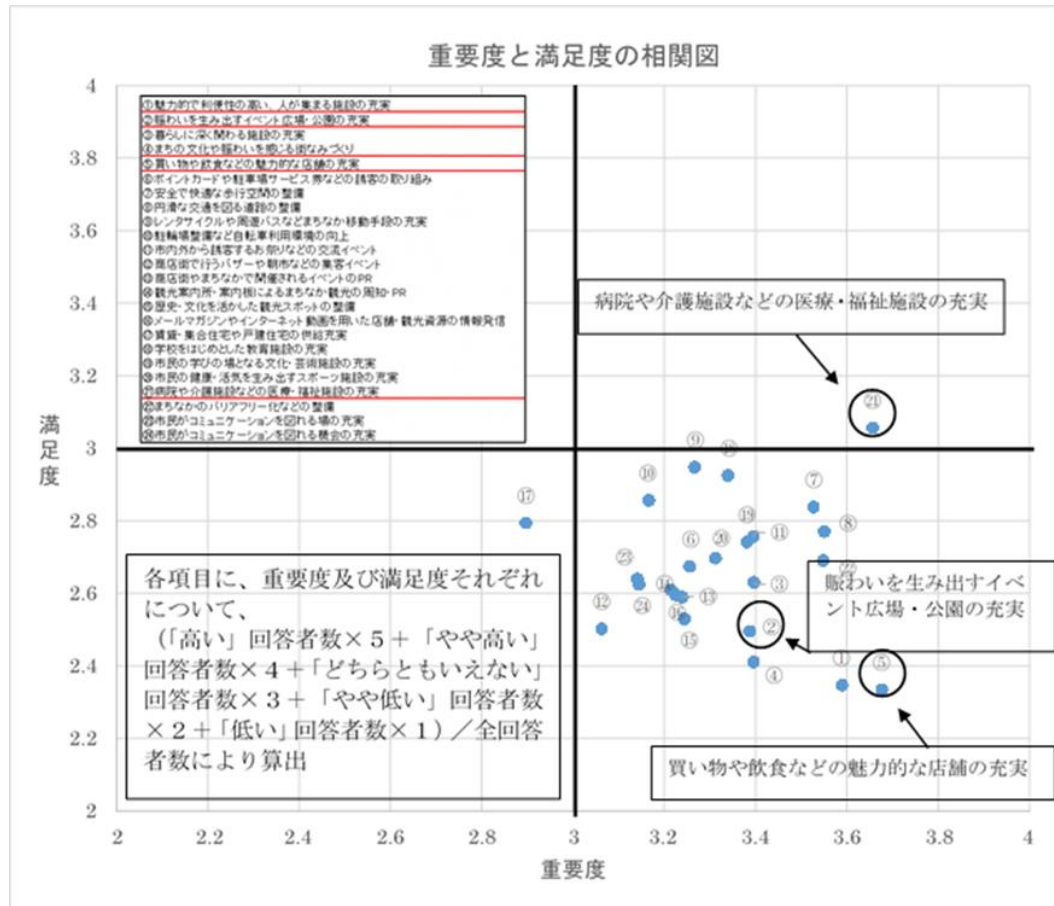
○平成27年から5年間の中心市街地への来訪頻度の変化



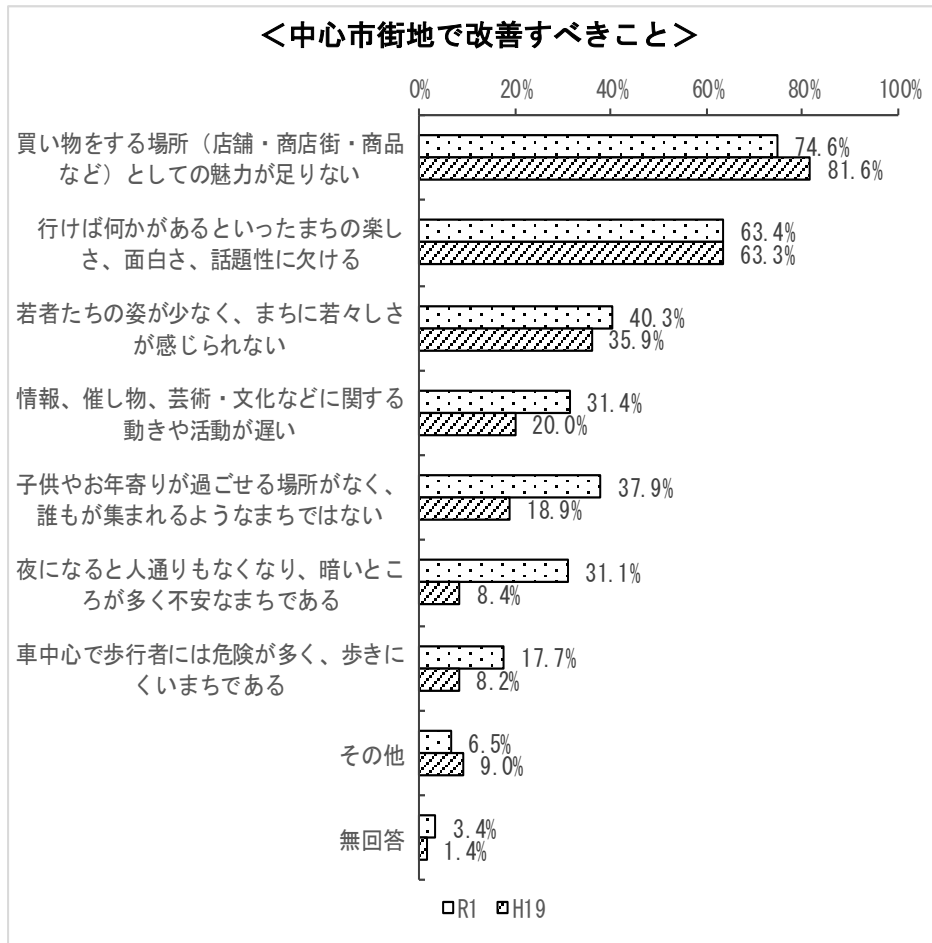
○過去5年間での中心市街地のにぎわいの変化



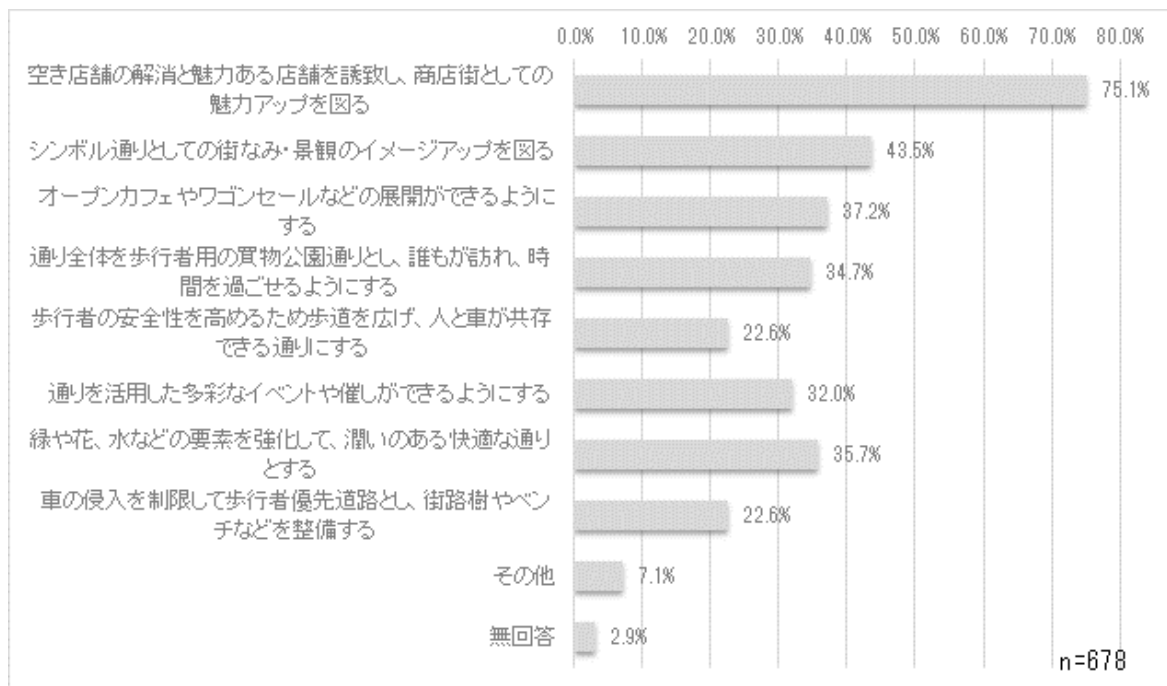
○中心市街地のまちづくりの重要度と満足度



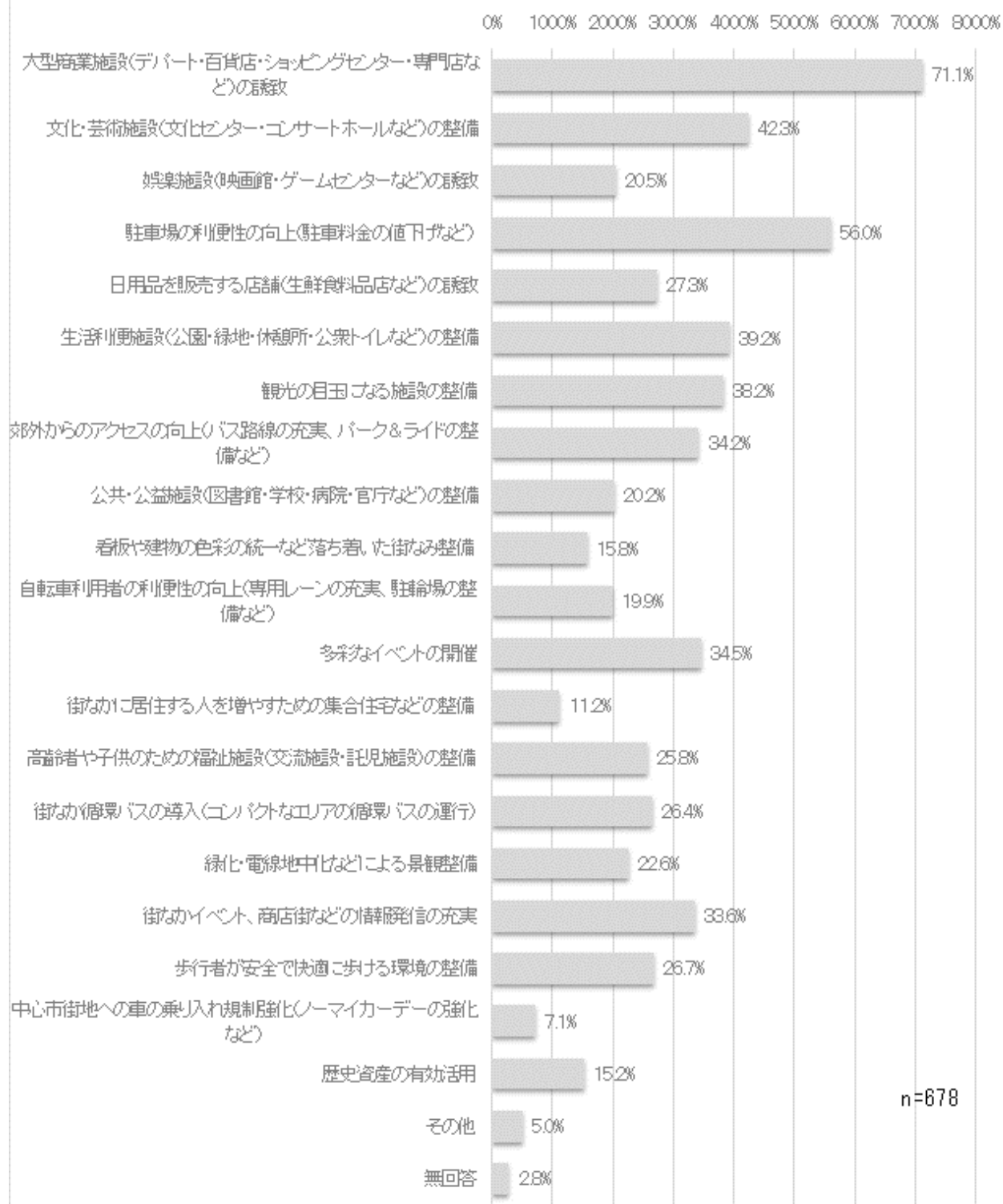
○中心市街地で改善すべきこと



○駅前通りをふくしまの顔にふさわしいものにする取組み



○中心市街地のにぎわい創出のために必要な取組み



6. 今後の取組

第1期計画での南北軸形成に加えて、第2期計画における東西軸形成の結果、徐々に歩行者・自転車通行量が面的に増加傾向を見せ始めており、その趨勢を加速化させていく必要がある。

これまでのにぎわい軸形成を主眼とした拠点施設整備が進捗する中、市民からはまちのにぎわいの現状やまちづくりへの評価は低く、特に魅力ある商業やまちの楽しさ、駐車場の利便性向上等へのニーズが依然として高い状況にある。さらには芸術・文化、集う場の整備といった要望も高まってきている。空き店舗や低未利用地が増加していることも含めて、今後は商店街エリアを中心として、市民のまちに対する多様なニーズに応えられるような魅力の向上を進め、まちへの来訪を促し、かつ面的な回遊性を強化して賑わいを創出していく。

具体的には、福島駅東口第一種市街地再開発事業を核としながら、県庁通りにおける「専門店の技やこだわりを楽しめるクラフト・モール整備事業」のほか、「商店街エリア価値向上支援事業」による起業・創業支援等の継続実施、市内の大学・短期大学の学生等による「学生まちなかイメージUPコンテスト」等の実施により産学官連携による取り組みを実施する。

さらには、駐車場不足への市民ニーズに対しては、再開発事業による駐車場不足の解消とともに、街中を人が歩いて回遊することによるにぎわい創出のため、IoTを活用した無人貸出が可能なシェアサイクルの本格導入なども含めて検討を進めていく。

これらにより、県都福島の中心地としての風格と賑わい、文化性が感じられるまちを目指し、その効果を把握するため、目標指標に基づく評価を行い、PDCAサイクルを継続する。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	(参考) 目標値の 80%	最新値		達成 状況
					(数値)	(年 月)	
賑わいの創出	歩行者・自転車通行量	34,918 人/日 (H26)	35,970 人/日 (R2)	35,760 人/日 (R2)	28,240 人/日	R2.7	C
	新規出店舗数	22 店舗 (H26)	25 店舗 (R2)	24 店舗 (R2)	31 店舗	R2.12	A
快適居住の促進	居住人口	16,750 人 (H26)	16,820 人 (R2)	16,806 人 (R2)	16,066 人	R2.9	C
	文化・交流施設利用者	2,330,327 人 (H25)	2,524,700 人 (R2)	2,485,825 人 (R2)	2,144,084 人	R2.4	C

<達成状況の分類>

A：目標達成、B1：概ね目標達成（基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている）、B2：基準値より改善（基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない）、C：基準値に及ばない

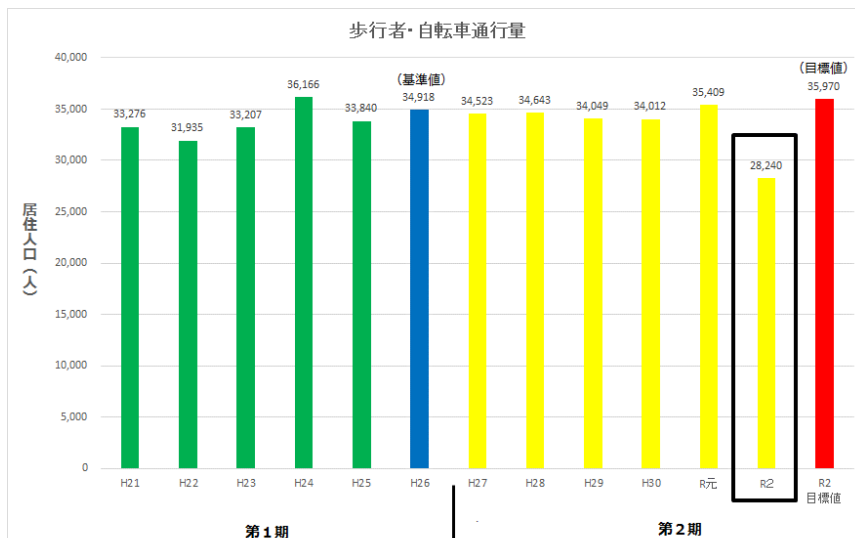
※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、小文字にして下さい。（注：小文字のa、b1、b2、cは下線を引いて下さい）

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「歩行者・自転車通行量（休日）」（目標の達成状況【C】）

※目標値設定の考え方認定基本計画 P84～P91 参照

●調査結果と分析



年	通行量 (人)
H26	34,918 (基準年値)
H27	34,523
H28	34,643
H29	34,049
H30	34,012
R1	35,409
R2	28,240
R2	35,970 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行者、毎年7月の第1週目金曜日・日曜日に9地点において8:00～19:00時で計測（毎年1回）

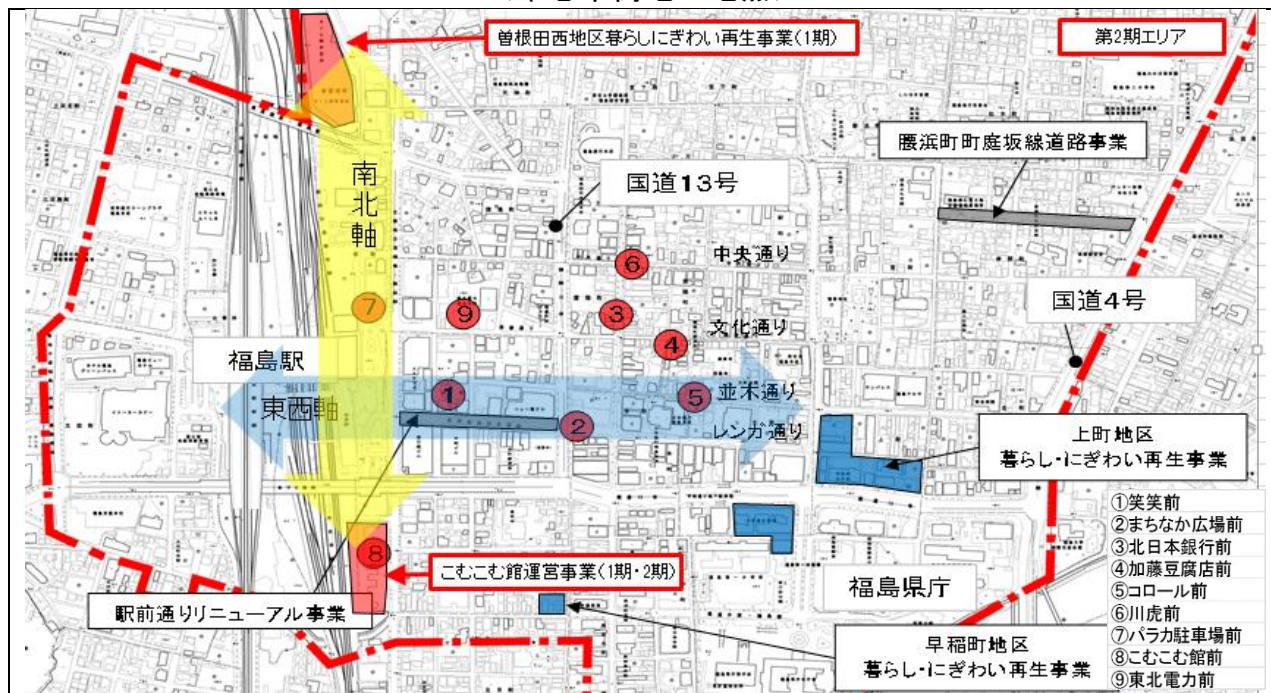
※調査月：毎年7月

※調査主体：福島市

※調査対象：中心市街地9地点（①笑笑前、②まちなか広場前、③北日本銀行前、④加藤豆腐店前、⑤コロール前、⑥川虎前、⑦パラカ駐車場前、⑧こむこむ館前、⑨東北電力前）

※通行量値：平日・休日の中心市街地9地点を加重平均した値【加重平均：[休日（2日）＋平日（5日）]/7日】

＜中心市街地9地点＞



＜中心市街地9地点の歩行者・自転車通行量＞

（単位：人）

	H26年度 (計画前年度)	H27年度 (1年目)	H28年度 (2年目)	H29年度 (3年目)	H30年度 (4年目)	令和元年度 (5年目)	令和2年度 (6年目)
①笑笑前	18,786	19,159	18,773	18,434	18,017	16,414	12,905
②まちなか広場前	8,582	9,257	9,006	8,809	9,442	8,621	6,773
③北日本銀行前	4,611	4,552	4,805	4,631	4,954	4,910	4,383
④加藤豆腐店前	3,067	3,282	3,190	3,281	3,363	3,971	3,195
⑤コロール前	3,540	3,316	3,688	3,534	3,546	3,718	3,403
⑥川虎前	3,004	3,283	3,464	3,698	3,210	3,862	3,321
⑦パラカ駐車場前	10,649	11,619	11,496	11,084	11,660	12,986	9,284
⑧こむこむ館前	5,533	5,541	5,758	5,654	5,627	6,216	4,538
⑨東北電力前	5,504	4,305	4,348	4,261	4,176	5,327	3,656

＜分析内容＞

計画で掲げていた事業は予定どおり完了または実施中である。歩行者・自転車通行量は、ほぼ横ばい傾向が続いていたが、上町地区暮らしにぎわい再生事業（大原総合病院）やまちなか交流スペース事業等が完了し、福島駅を起点とする東西軸が強化されたことにより南北軸とあいまって面的な人の流れが生じ、令和元年度には7割の調査ポイントで増加に転じた。

令和2年度には、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛の影響により、まちなか

への人出を著しく減少させる結果となった。また、令和2年8月末には中合福島店が閉店したことで、駅前の求心力・魅力の低下による、中心市街地への市民や県北地域からの来訪機会が減少することが懸念されるが、跡地における第一種市街地再開発事業の実施により、新たな集客の拠点となることが期待される。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

① 上町地区暮らし・にぎわい再生事業（実施主体：（一財）大原記念財団）

事業実施期間	平成24年度～平成30年度【済】
事業概要	中心市街地にある総合病院を、地域医療を支えるため先進医療導入した拠点病院として整備する。 （地上10階建、病床数353床、立体駐車場420台、平面駐車場184台、供給処理施設、外構整備等）
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 （暮らし・にぎわい再生事業（上町地区））（国土交通省） （平成24年度～平成30年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値：448人/日（平日）（①笑笑前、②街なか広場前） 最新値：388人/日 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	病院を訪れる外来者数の見込みが820人/日であったが、平成30年2月～平成31年2月の平均実績では715人/日にとどまっているため。
計画終了後の状況及び事業効果	平成30年1月に大原総合病院が開院し、192,000人/年の集客効果が生まれ、周辺の賑わいや回遊性の向上に寄与した。
事業の今後について	大原総合病院と隣接している上町テラス（複合施設）で病院が主催する健康セミナーのイベント開催や県庁通り商店街振興組合と連携し、催し等を行うことで集客と賑わいの創出を図る。

② 早稲町地区暮らし・にぎわい再生事業（実施主体：（株）グリーンアカデミー、医療法人社団敬愛会）

事業実施時期	平成22年度～平成29年度【済】
事業概要	医療施設を整備するとともに、併設して有料老人ホーム、分譲住宅、立体駐車場、店舗等の複合施設を整備する。 （地上14階建て 分譲住宅45戸、有料老人ホーム46戸）
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 （暮らし・にぎわい再生事業（早稲町地区））（国土交通省） （平成22年度～平成29年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：42人/日（平日）、186人/日（休日） 最新値：46人/日（平日）、204人/日（休日） 目標達成
達成した（出来なかった）理由	福島駅近傍で住宅需要面の人気が高いエリアに立地していることから、本事業の完了後に入居募集をしたところ応募者が殺到し、100%の入居となった。
計画終了後の状況及び事業効果	平成28年12月、医療・福祉施設・分譲住宅の複合施設が完成したことにより、福島駅から当該施設への経路に当たるこむこむ館前の歩行者・自転車通行量の増加につながり、周辺地区の賑わいや回遊性の向上に寄与した。

事業の今後について	中心市街地共通駐車サービス券事業と連携し活用を図る。
③ まちなか交流スペース事業（実施主体：福島市）	
事業実施時期	令和元年度【済】
事業概要	「旧東口行政サービスコーナー」を「まちなか交流スペース」へとリニューアル整備する。 （情報発信・交流・活動拠点や休憩スペースの提供）
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：－ 市民の交流・活動拠点や休憩スペースとして、令和2年度の施設利用者数は、13,103人/年になるなど、賑わいが創出された。
達成した（出来なかった）理由	人通りの多いレンガ通りやパセオ通りに面した既存市有施設のリニューアルであったことから、開館当初から施設利用者が多く、令和2年度の施設利用者数は、13,103人/年になるなど、賑わいの創出につながった。
計画終了後の状況及び事業効果	まちなか交流スペースリニューアルと合わせて愛称を名付け、広く市民に周知することで活用の幅が広がった。また、DIYボランティアを募集し、施設で使用する備品のDIYを行うなど、みんなで育てる施設として市民の積極的な利用を促している。
事業の今後について	令和3年度に工事着手する新まちなか広場整備事業の広場空間との相乗効果による集客や回遊性の向上を図る。
④ 古関裕而を活かしたまちづくり事業（古関裕而ストリート整備事業）（実施主体：福島市）	
事業実施時期	令和元年度～令和2年度【済】
事業概要	駅前通りからレンガ通りを古関裕而ストリートとして整備する。 （ストリート楽曲再生装置等の整備）
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：－ 福島市出身の作曲家古関裕而氏をモデルにしたNHK連続テレビ小説（朝ドラ）「エール」の令和2年春からの放映開始効果とあいまって、まちなか交流スペースの開館により、レンガ通りの賑わい創出につながった。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛の影響により、レンガ通りの歩行者通行量は前年比で落ち込んでいるものの、令和元年度4,938人に対し、令和2年度4,142人と前年度の8割を超えるなど、まちなか回遊に寄与した。
達成した（出来なかつ	“エール効果”を商店街に波及させるための地元商業者等の

た) 理由	機運が盛り上がり、事業の協力を得やすかった。
計画終了後の状況及び事業効果	古関裕而の楽曲再生装置やロゴフラッグなどの装飾を東西軸沿線に設置した。
事業の今後について	古関裕而氏を活かしたまちづくり事業の展開を商店街と賑やかしを検討し中心市街地の集客と回遊性の向上を図る。

⑤ 古関裕而を活かしたまちづくり事業（街なか等古関裕而誘客事業）（実施主体：福島市）

事業実施時期	令和2年度～【実施中】
事業概要	花観光スタンプラリーと古関裕而氏を中心とした観光コンテンツの創出による取組みを行う。 （チラシ配布（情報誌とタイアップ）、スタンプラリー）
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：－ 福島市出身の作曲家古関裕而氏をモデルにしたNHK連続テレビ小説（朝ドラ）「エール」の令和2年春からの放映開始の効果とあいまって、令和2年6月20日～11月30日の「古関裕而まちなか青春館」来場者数が22,820人になるなど、まちなか回遊の向上につながった。
達成した（出来なかった）理由	“エール効果”を商店街に波及させるための地元事業者等の機運が盛り上がり、事業の協力を得やすかった。
計画終了後の状況及び事業効果	市内商業のPRと花観光スタンプラリーと連携する取組を展開する。
事業の今後について	古関裕而氏を活かしたまちづくり事業を商店街と賑やかしについて検討し、中心市街地の集客と回遊性の向上を図る。

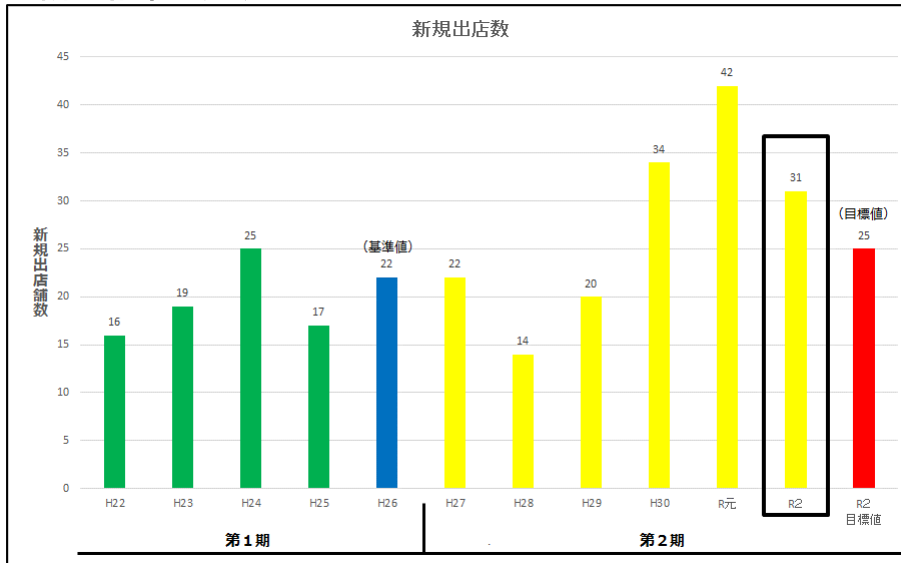
●今後の対策

今後は、「福島駅東口地区第一種市街地再開発事業」や「新まちなか広場整備事業」による集客力の向上に合わせて、「商店街エリア価値向上支援事業」「専門店の技やこだわりを楽しめるクラフト・モール整備事業」のほか、各種イベントの充実等による商店街の魅力化や芸術・文化的な雰囲気を感じられるまちづくりを進めることにより、多様な市民が面的な広がりの中で行き交い賑わいを生み出すことで実績を伸ばしていく。

(2) 「新規出店舗数」(目標の達成状況【A】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P91～P94 参照

●調査結果と分析



年	新規出店舗 (店舗)
H26	22 (基準年値)
H27	22
H28	14
H29	20
H30	34
R1	42
R2	31
R2	25 (目標値)

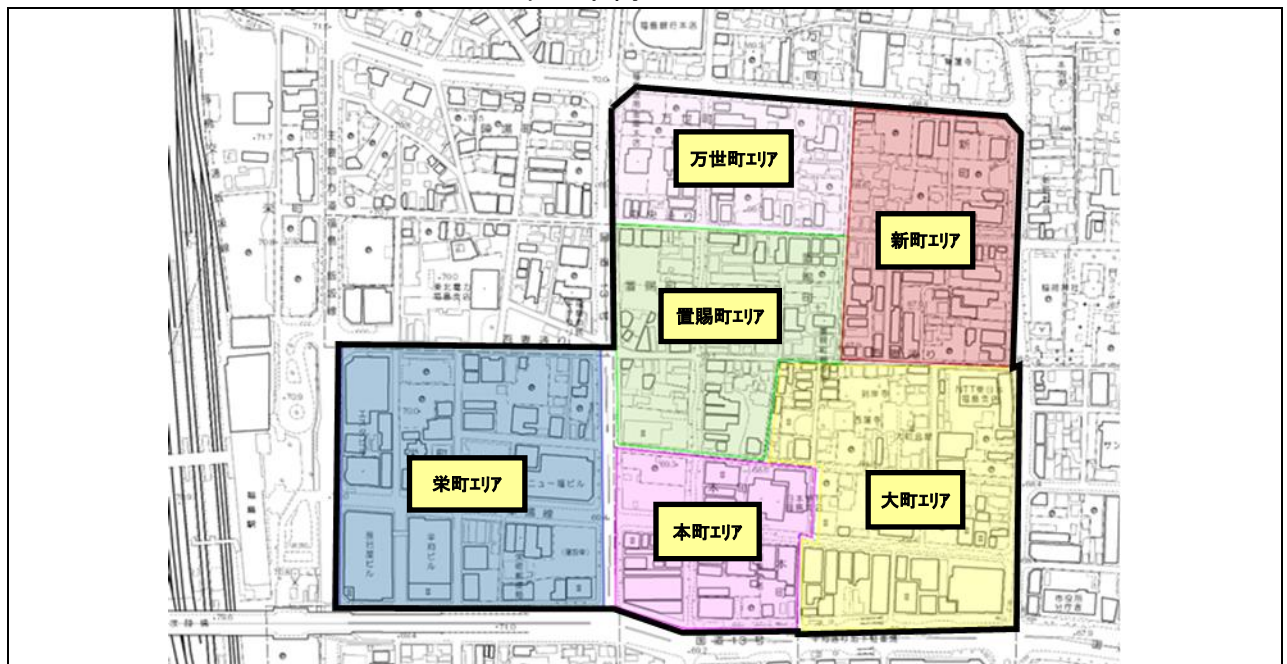
※調査方法：毎年 11 月に中心市街地 6 地区（本町、大町、栄町、置賜町、新町、万世町）の新規出店舗数

※令和 2 年度の目標値は、基準値（過去 5 年の平均値：20 店舗）から 5 店舗増の 25 店舗とする。（目標年次までの 5 年間に毎年 1 店舗の出店を誘発する）

※調査主体：福島市

※調査対象：中心市街地における中心部（6 地区：本町、大町、置賜町、新町、万世町、栄町）

<中心市街地 6 地区>



< 中心市街地 6 地区の新規出店舗数 >

(単位：店舗)

	H26 年度 (計画前年度)	H27 年度 (1 年目)	H28 年度 (2 年目)	H29 年度 (3 年目)	H30 年度 (4 年目)	令和元年度 (5 年目)	令和 2 年度 (6 年目)
本町	1	1	3	1	0	1	2
大町	4	0	3	4	2	5	9
置賜町	4	4	4	5	8	19	7
新町	4	9	0	1	9	5	1
万世町	3	2	0	6	8	3	7
栄町	6	6	4	3	7	9	5
合計	22	22	14	20	34	42	31

< 分析内容 >

まちなかでの起業・創業を志向する市民ニーズは高まりを見せており、新規出店を後押しする利子補給事業は着実に実績を伸ばし、目標を上回る結果となった。

福島駅前通りリニューアルや大原総合病院による高度医療の充実など、高次の都市機能の集積により、まちなかでの起業・創業の機運が高まったことが背景にあると思われる。

● 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

① 創業応援利子補給事業 (事業主体：福島市)

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	創業にかかる融資の利子全額を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 (総務省) (平成 27 年度～令和 2 年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：毎年 1 店舗 最新値：31 店舗 目標達成
達成した(出来なかった)理由	空き店舗が増加する一方で、まちなかでの起業・創業ニーズが高まる中、事業の利用しやすさが大きく効果を生んでいる。
計画終了後の状況及び事業効果	令和 2 年度までの 6 カ年で中心市街地の創業者に対する融資利子への新規補給件数は 105 件となり、新規出店舗数増加への効果が大きいと考える。 (年間補給件数 H27: 7 件、H28: 13 件、H29: 25 件、H30: 26 件、R1: 26 件、R2: 28 件)
事業の今後について	創業応援利子補給事業は年平均 18 件と順調に行われている。今後、創業応援利子補給事業の周知を徹底し活用を図る。

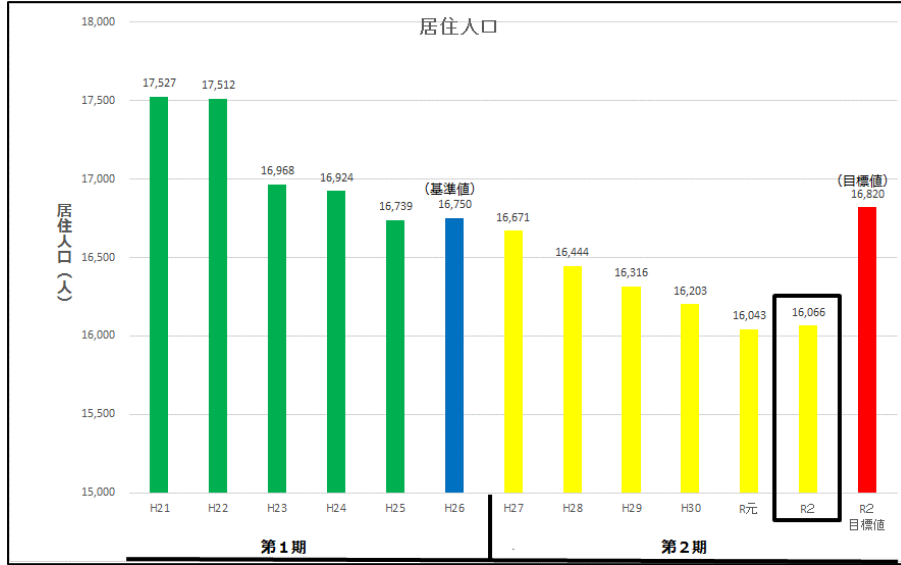
● 今後の対策

今後、商店街の魅力をより一層高める観点から、通りごとにテーマ性を持たせるなどの戦略を立て、これに基づいて従来の効果を発現している当該事業を継続することにより、起業・創業を志向する人と商店街の空き店舗等の効果的なマッチングを進めていく。合わせて各種商業活性化に関する事業を継続しつつ、学生等も含めた多様な主体のまちづくりへの参画を働きかけ、にぎわいの創出を図ることで、新規出店舗数のさらなる拡大へとつながら好循環の仕組みづくりを進める。

(3) 「居住人口」(目標の達成状況【C】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P94～P97 参照

●調査結果と分析



年	居住人口 (人)
H26	16,750 (基準年値)
H27	16,671
H28	16,444
H29	16,316
H30	16,203
R1	16,043
R2	16,066
R2	16,820 (目標値)

※調査方法：毎年9月末の住民基本台帳から中心市街地を含む町会別の人口集計

※令和2年度の目標値は、平成26年度の16,750人から70人増の16,820人とする。

※調査主体：福島市

※調査対象：第2期福島市中心市街地活性化基本計画エリア (297ha)

＜第2期中心市街地活性化基本計画エリアの年間居住人口＞

(単位：人)

	H26年度 (計画前年度)	H27年度 (1年目)	H28年度 (2年目)	H29年度 (3年目)	H30年度 (4年目)	令和元年度 (5年目)	令和2年度 (6年目)
柳町	114	113	113	123	124	119	120
御倉町	136	129	132	135	131	127	132
荒町	216	219	212	209	213	209	208
早稲町	337	346	333	308	372	387	384
中町	594	604	591	561	540	533	549
杉妻町	11	12	9	8	7	7	7
栄町	319	310	301	302	290	302	293
置賜町	152	156	146	144	133	137	125
本町	130	127	110	110	111	118	112
大町	64	68	67	66	60	54	114
新町	426	427	432	421	416	465	479
万世町	275	251	238	231	223	220	211
陣場町	479	482	472	460	432	421	413
曾根田町	498	509	503	481	466	465	468
森合町	614	589	571	569	544	521	504
天神町	792	810	786	772	775	755	754
宮下町	831	822	809	807	795	764	756
御山町	337	328	321	320	322	315	309
上町	144	150	140	121	114	117	121
北町	161	162	153	159	154	153	152
仲間町	687	715	700	715	709	711	677
宮町	192	178	176	170	158	146	162
新浜町	438	434	431	413	424	397	398
松木町	396	382	384	403	390	401	403
浜田町	443	430	419	413	427	436	431
五老内町	163	150	145	139	156	155	162
北五老内町	526	540	532	550	539	527	526
花園町	313	316	306	287	282	288	292
霞町	336	340	347	344	359	346	346
太田町	1,465	1,500	1,516	1,513	1,505	1,484	1,462
三河南町	411	410	465	468	464	444	521
三河北町	471	467	459	460	467	469	463
山下町	546	531	515	567	587	587	568
春日町	1,067	1,072	1,061	1,071	1,057	1,023	1,003
旭町	512	520	530	521	527	519	510
松浪町	605	593	586	549	545	548	560
入江町	578	555	546	543	517	519	491
八島町	971	924	887	883	868	854	880
合計	16,750	16,671	16,444	16,316	16,203	16,043	16,066

＜分析内容＞

計画で掲げていた「早稲町地区暮らし・にぎわい再生事業」や民間マンション建設が進んだことから、令和2年度にはわずかながら人口増に転じたものの、少子化による人口の自然減の趨勢に大きな変化が見込まれない中で、近くにスーパーがないといった問題等か

ら、長らく人口減少に歯止めがかからない状況が続き、令和2年度の人口は目標値を大きく下回る結果となった。

新築マンションの人気は一定程度持続するなど、地区外への転出数に対する転入数の勢いが相対的に増しており、こうした社会増の傾向を伸ばすために、住宅新築の一方で、空き家やマンションの空き住戸への入居促進策などを並行して進めていく必要がある。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

① 早稲町地区暮らし・にぎわい再生事業（実施主体：(株)グリーンアカデミー、医療法人社団敬愛会）

事業実施期間	平成22年度～平成29年度【済】
事業概要	医療施設を整備するとともに、併設して有料老人ホーム、分譲住宅、立体駐車場、店舗等の複合施設を整備する。 (地上14階建て 分譲住宅45戸、有料老人ホーム46戸)
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 (暮らし・にぎわい再生事業(早稲町地区))(国土交通省) (平成22年度～平成29年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：136人 最新値：151人 目標達成
達成した(出来なかった)理由	事業が予定通り完了したところに、入居希望者が多く全ての住戸の入居が完了した。
計画終了後の状況及び事業効果	平成28年12月、医療・福祉施設・分譲住宅の複合施設が完成し、45戸の分譲住宅が整備され151人の居住人口の増加につながった。
事業の今後について	中心市街地共通駐車サービス券事業と連携し活用を図る。

② 新浜町地区優良再開発型優良建築物等整備事業（実施主体：新浜町地区再開発ビル建設協議会）

事業実施期間	令和元年度～令和3年度【実施中】
事業概要	バリアフリーの分譲マンションと併設してクリニックの複合施設を整備する。 (地上19階建て 分譲住宅87戸、クリニック、立体駐車場整備)
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 (優良再開発型優良建築等整備事業 共同化タイプ(新浜町地区))(国土交通省) (令和元年度～令和3年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：－
達成した(出来なかった)理由	－
計画終了後の状況及び事業効果	令和4年2月に複合施設が完成し、87戸の分譲住宅が整備され150人の居住人口増加が見込まれる。
事業の今後について	分譲住宅の入居募集とともにクリニック誘致を早期に進め、中心市街地の住環境の向上に期待する。

●今後の対策

「上町地区暮らし・にぎわい再生事業」（大原総合病院）や「早稲町地区暮らし・にぎわい再生事業」により、医療・福祉施設が充実したことで、まちなかでの生活利便性が向上してきており、市民の評価も上がってきている。

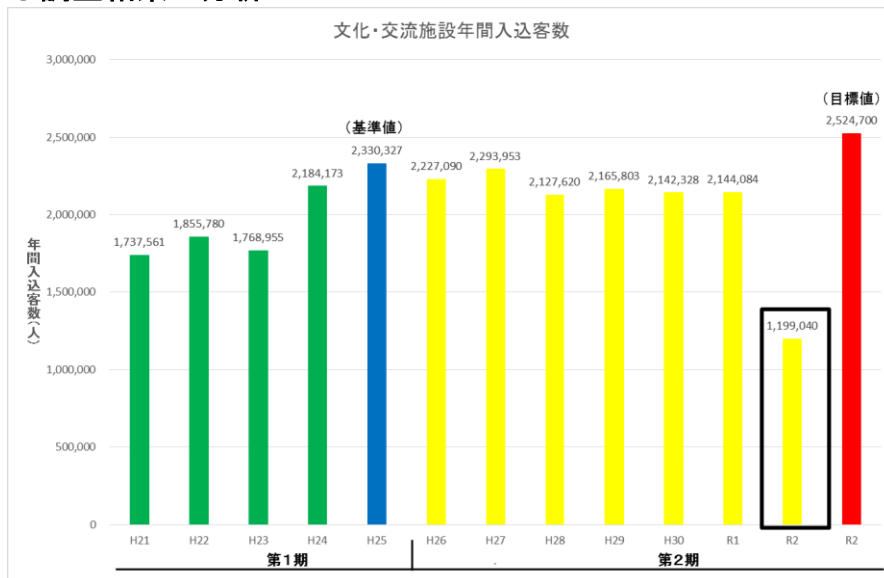
今後は、「福島駅東口地区第一種市街地再開発事業」や「新浜町地区優良再開発型優良建築物等整備事業」「太田町地区市街地住宅供給型優良建築等整備事業」等による住宅供給のほか、「借上市営住宅供給促進事業」や高齢者向けの「家賃助成事業」等を継続的に実施するとともに、民間マンション建設の動向も活発化していることから、中心市街地の居住の受け皿がより一層確保される見込みである。

これに合わせて、まちなか居住のニーズが比較的に高いと思われる若者や高齢者等に対して、訴求力を高めるためのスーパー等の身近な生活利便施設の充実を図ることで、居住人口の増加に繋げていく。

（４）「文化・交流施設年間入込客数」（目標の達成状況【C】）

※目標値設定の考え方認定基本計画 P97～P101 参照

●調査結果と分析



年	年間入込客数(人)
H25	2,330,327 (基準年値)
H26	2,227,090
H27	2,293,953
H28	2,127,620
H29	2,165,803
H30	2,142,328
R1	2,144,084
R2	1,199,040
R2	2,524,700 (目標値)

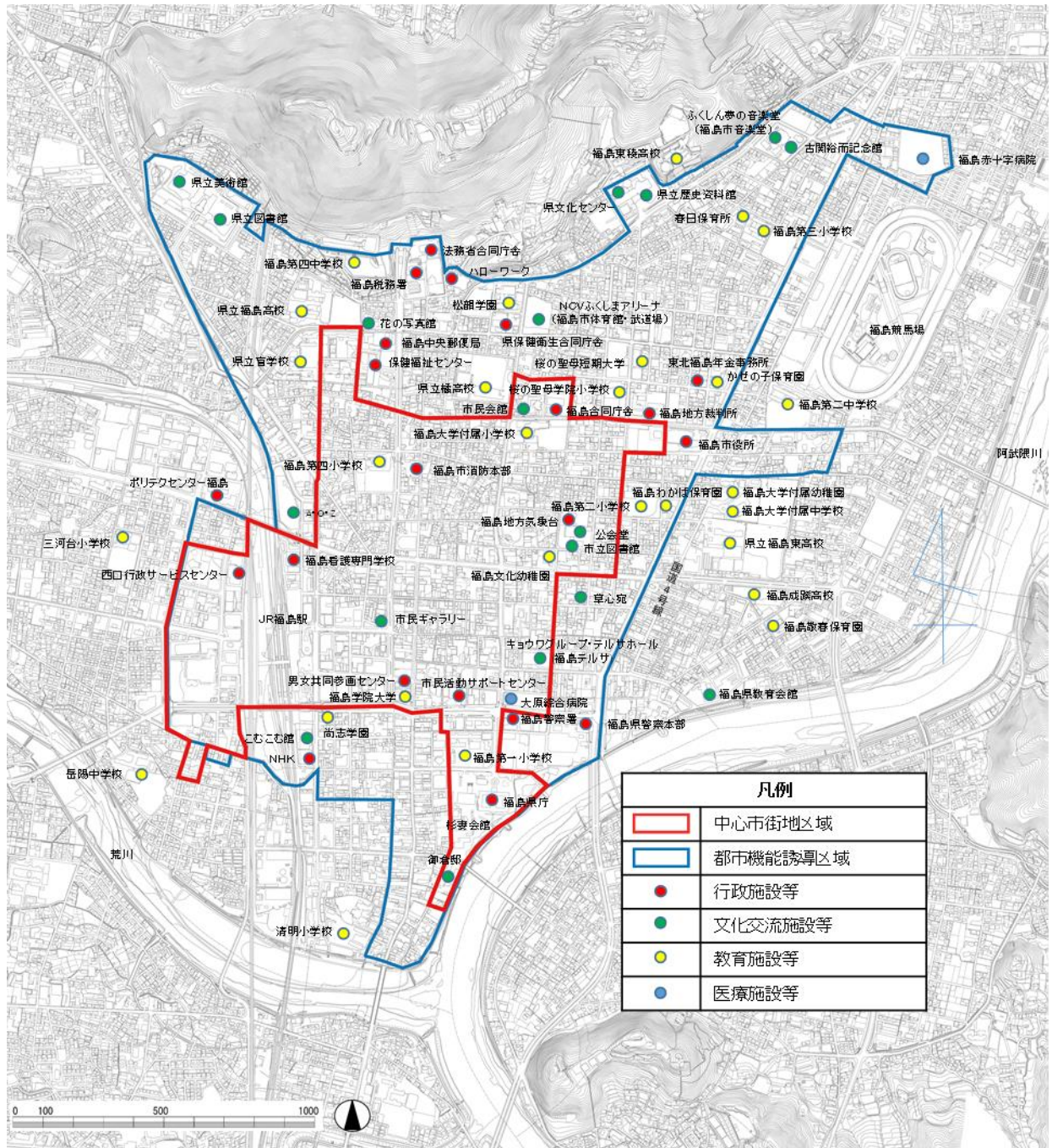
※調査方法：前年度末の中心市街地の文化・交流施設の年間入込客数を管理者からの報告（こむこむ館、福島市公会堂、キョウワグループ・テルサホール（福島テルサ）、御倉邸、市民会館、福島市図書館、中央学習センター、市民ギャラリー、アクティブシニアセンター、パセナカ Misse、福島県文化センター、福島県歴史資料館、ふくしん夢の音楽堂（福島市音楽堂）、古関裕而記念館、福島市写真美術館（花の写真館）、NCV ふくしまアリーナ（福島市体育館・武道場））

※令和2年度の目標値は、平成21年度から平成25年度までの中心市街地における文化・交流施設年間入込客数に回帰式を当てはめ、将来の年間入込客数を推測

※調査主体：福島市

※調査対象：第2期福島市中心市街地活性化基本計画エリア（297ha）

＜公共公益施設位置図＞



＜第2期福島市中心市街地活性化基本計画エリアの文化・交流施設年間入込客数＞

(単位：人)

	H26年度 (計画前年度)	H27年度 (1年目)	H28年度 (2年目)	H29年度 (3年目)	H30年度 (4年目)	令和元年度 (5年目)	令和2年度 (6年目)
①こむこむ館	252,734	266,711	271,366	274,877	239,232	217,646	67,052
②福島市公会堂	62,298	53,439	45,890	50,733	-	-	-
③キョウワグループ・テルサホール (福島テルサ)	216,315	209,385	143,461	200,652	202,800	200,580	112,516
④御倉邸	25,745	30,174	20,908	21,191	19,443	15,995	13,992
⑤市民会館	185,020	190,147	188,304	199,179	187,473	178,242	95,019
⑥福島市図書館	244,502	264,497	261,784	259,982	289,626	286,153	251,616
⑦中央学習センター	94,045	97,425	90,731	85,045	82,742	77,481	27,880
⑧市民ギャラリー	8,082	9,030	8,860	7,707	9,182	6,538	899
⑨アクティブシニアセンター	610,043	639,185	638,739	609,004	632,335	613,483	356,560
⑩パセナカMisse	5,373	4,963	4,781	4,547	4,614	5,638	1,454
⑪福島県文化センター	362,520	368,552	282,611	262,526	277,772	295,458	47,502
⑫福島県歴史資料館	8,315	11,613	9,329	16,249	13,440	8,920	14,980
⑬ふくしん夢の音楽堂 (福島市音楽堂)	137,217	134,152	145,916	159,541	129,246	109,809	50,920
⑭古関裕而記念館	14,881	14,680	14,940	14,570	15,733	29,513	62,586
⑮福島市写真美術館(花の写真館)	-	-	-	-	-	-	-
⑯NCVふくしまアリーナ (福島市体育館・武道場)	-	-	-	-	38,690	98,628	96,064
合計	2,227,090	2,293,953	2,127,620	2,165,803	2,142,328	2,144,084	1,199,040

＜分析内容＞

計画で掲げていた目標の達成状況を見ると、令和2年度の数値は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛の影響等により、目標値を下回る結果となった。

しかし、NHK連続テレビ小説(朝ドラ)「エール」の放映開始以降、古関裕而記念館の入館者が平成26年の約4.2倍になるなど、「古関裕而を活かしたまちづくり事業」の効果が現れていることから、来街者増加に向けたこれらの取り組みを継続的に実施することが求められる。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

① 文化交流施設整備事業（福島市写真美術館）（実施主体：福島市）

事業実施期間	平成27年度～令和2年度【済】 〔認定基本計画：平成27年度～令和3年度〕
事業概要	東日本大震災で被災した「福島市写真美術館」の復旧整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	公立社会教育施設災害復旧費補助金（文部科学省） （平成27年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：13,150人/年 最新値：－
計画終了後の状況及び事業効果	令和3年の再オープンに向けて着手した。 復旧後には、施設利用者数の13,150人の増加を見込んでいる。
事業の今後について	復旧後の再オープンに向けた広報PRを徹底し、中心市街地全体への波及効果に期待する。

② 霞町地区暮らし・にぎわい再生事業（実施主体：福島市）

事業実施期間	平成27年度～平成30年度【済】
事業概要	東日本大震災で被災した「福島体育館」において、新たに交流の場となる多目的スペース等を設置する再生整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 （暮らし・にぎわい再生事業（霞町地区）（国土交通省）） （平成27年度～平成30年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：3,360人/年 最新値：98,628人/年 目標達成
達成した（出来なかった）理由	市有施設のリニューアルであり、スポーツ需要の高まりを背景に市民の期待が大きかった。
計画終了後の状況及び事業効果	福島体育館（複合施設）が完成し、目標を大きく上回る市民の利用があり、地域の賑わい創出につながっている。
事業の今後について	新たに整備された多目的スペースを活用するスポーツ教室等のイベントを開催し、集客と賑わいの創出に期待する。

③ 古関裕而を活かしたまちづくり事業（古関裕而記念館リニューアル整備事業）（実施主体：福島市）

事業実施期間	令和元年度～令和2年度【済】
事業概要	古関裕而記念館の展示設備等のリニューアル整備を行う。 （展示計画の策定、企画展示、常設展示設備）
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：－
達成した（出来なかった）理由	NHK連続ドラマ小説（朝ドラ）「エール」の放映を契機とした「古関裕而を活かしたまちづくり事業」により、メロディーバス運行等を実施した効果が現れたものとする。
計画終了後の状況及び事業効果	令和2年度の「古関裕而記念館」への入場者数が62,586人と平成26年の4.2倍に達した。

事業の今後について	古関裕而氏を活かしたまちづくり事業のソフト事業と連携し展開することで文化・交流施設利用者の増加に期待する。
-----------	-------------------------------------------------------

④ 古関裕而を活かしたまちづくり事業(古関裕而メロディーバス車両架装購入事業)(実施主体：福島市)

事業実施期間	令和元年度～令和2年度【済】
事業概要	古関裕而記念館とバス運行の連携により、回遊性の向上を図るためにメロディーバス（架装バス）を購入する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：－ 古関裕而が活躍した時代背景（昭和レトロ）をモチーフにしたバスの導入により、賑わい創出のイメージ形成につながった。
達成した(出来なかった)理由	NHK連続テレビ小説（朝ドラ）「エール」の放映と連動するかたちで導入したことにより、話題性の確保につながり利用者の増加につながった。
計画終了後の状況及び事業効果	メロディーバスが新たなビューポイントとなり、福島のイメージ向上に繋がり、令和2年11月には2,902人/日の乗車があり、古関裕而記念館をはじめとするまちなか回遊者数の増加につながっている。
事業の今後について	メロディーバス車両架装購入後の運行計画を交通事業者と早期に検討し実施することで文化・交流施設利用者の増加に期待する。

●今後の対策

主要事業である文化交流施設整備事業（福島市写真美術館）の再整備が完了したことや令和2年春からNHK連続テレビ小説（朝ドラ）「エール」の放映を契機とした「古関裕而を活かしたまちづくり事業」の様々な取組みと連携することで文化・交流施設利用者を中心市街地全体に効果を波及させ、さらに実績を伸ばしていきたい。更には、各施設で行うイベントを単発で行うのではなく、連携し一体的に行うことにより、より大きな集客性を確保できるよう官民あげて取組み、施設利用者の増加を図っていく。